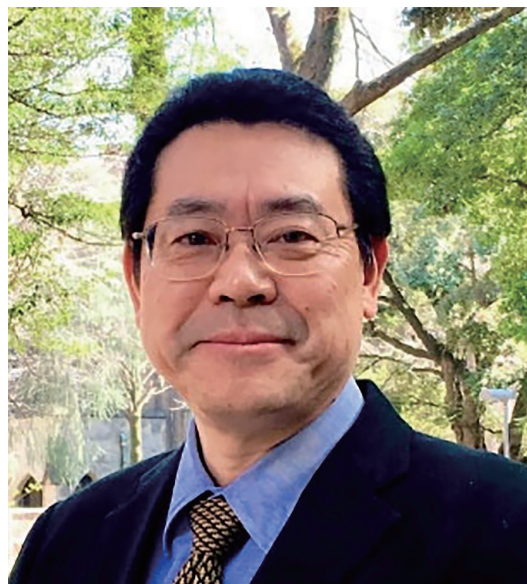


岩田 忠久（イワタ タダヒサ）

Tadahisa IWATA

東京大学大学院農学生命科学研究科
教授／総長特任補佐・1966 年生
京都大学大学院農学研究科博士後期課程単位取得認定退学、博士（農学）
繊維学会元副会長
Professor/Special Advisor to the President,
Graduate School of Agricultural and Life Sciences,
The University of Tokyo
Born in 1966. Degree: Ph.D. (Kyoto University)
Former Vice President of The Society of Fiber Science and
Technology, Japan



～学学、産学、産官学の協奏を通じ、
繊維学及び繊維産業の発展に貢献する持続可能な学会に～

この度は、次期会長候補者として 40 名を越える様々な機関および年齢層の方々よりご推薦いただきましたこと、誠に光栄に存じます。以下に会長候補としての基本理念、重点施策と具体的な取り組みを述べます。繊維学会副会長、日本木材学会会長、日仏工業技術会会長、JST さきがけ統括、大学総長特任補佐の経験で培った知見を活かし、繊維学会を次のステージへと導く所存です。皆様からのご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

基本理念：持続可能で魅力ある繊維学会の構築

繊維は、衣類・生活用品にとどまらず、医療、建築、自動車・航空宇宙、農業資材など多岐にわたる分野で活用され、私たちの生活を豊かにする基盤素材です。繊維学会は、この多様性を支える学術・産業のプラットフォームとして、持続可能かつ活力ある組織であり続ける必要があります。私は、学术界・産業界・行政との協奏を通じて、繊維学会のさらなる発展と国際的な存在感の向上を目指します。

重点施策と具体的な取り組み

1. 学会運営の効率化と会員活性化：◆若手・支部会員の負担軽減を図る運営体制の見直し
◆ガバナンスの強化と諸規則の明確化 ◆繊維科学の教科書作成を通じた教育支援と会員増強 ◆JFST のインパクトファクター向上のための科研費「国際情報発信費」の獲得
◆異分野融合促進のための大会発表部門および研究会の再編 ◆国際的に活躍する人材育成プログラムの構築 ◆海外学会との連携強化と情報発信力の向上
2. 繊維を核とした新しい学問分野の創出と産学協創：◆GX・DX・サーキュラーバイオエコノミーへの対応 ◆高機能繊維素材の創製と新規紡糸技術の開発 ◆構造解析法の高高度化と応用展開 ◆人と地球にやさしい繊維製品の開発と社会実装
3. 学会合併に関する方針：財務運営上の懸念が解消され、繊維分野の教育者・研究者・技術者・経営者が一丸となれる体制が整えば合併を推進。それが困難な場合は、合併を見送り、独立性と機動性を重視し、更なる学会の発展を目指した運営を推進。